

1 調査名称：（藤沢市）都市交通マスタープラン等策定調査

2 調査主体：藤沢市

3 調査圏域：藤沢市全域

4 調査期間：令和3年5月18日から令和4年3月18日

5 調査概要：

本市では、平成25年度に都市交通マスタープランを策定しているが、超高齢社会の進展、自動運転技術の進展、新たな移動の概念である MaaS の登場など、交通に関連する社会状況は目まぐるしく変化している。これらの変化に対応していくためにも、令和5年度に都市交通マスタープランの全面的な見直しを予定している。

本業務では、平成30年度の東京都市圏パーソントリップ調査の結果等に基づき、将来交通需要推計を行い、交通マスタープランの見直しに供する基礎的資料を作成するとともに、策定に向けた課題の整理、今後の交通施策の基本方針のたたき台を作成する。

I 調査概要

1 調査名称

(藤沢市) 都市交通マスタープラン等策定調査

2 報告書目次

1. 調査概要

1－1 調査の目的

1－2 業務項目

1－3 業務内容

2. 将来交通需要推計モデルの構築

2－1 PT ベースモデルの前提

2－2 道路交通配分交通量の推計

2－3 バス交通配分交通量の推計

3. 将来人口設定・将来交通需要推計

3－1 人口指標の設定結果の概要

3－2 将来人口の設定方法

3－3 将来交通量の推計結果

3－4 テレワーク進展シナリオにおける将来交通量推計

3－5 将来交通量配分結果

3－6 バス交通量配分結果

4. 交通マスタープラン及び交通アクションプランの方向性に関する検討

4－1 上位計画、関連計画の整理

4－2 藤沢市の交通にかかる課題の抽出と整理

4－3 都市交通体系の基本方針見直しの検討

4－4 渋滞対策の検討

3 調査体制

令和３年度については、協議会を開催するのではなく、基礎調査を中心に調査を行った。令和４年度以降、都市交通マスタープランの改定に関する協議会を設置し、改定に向けた検討を進めていく予定としている。

4 委員会名簿等：

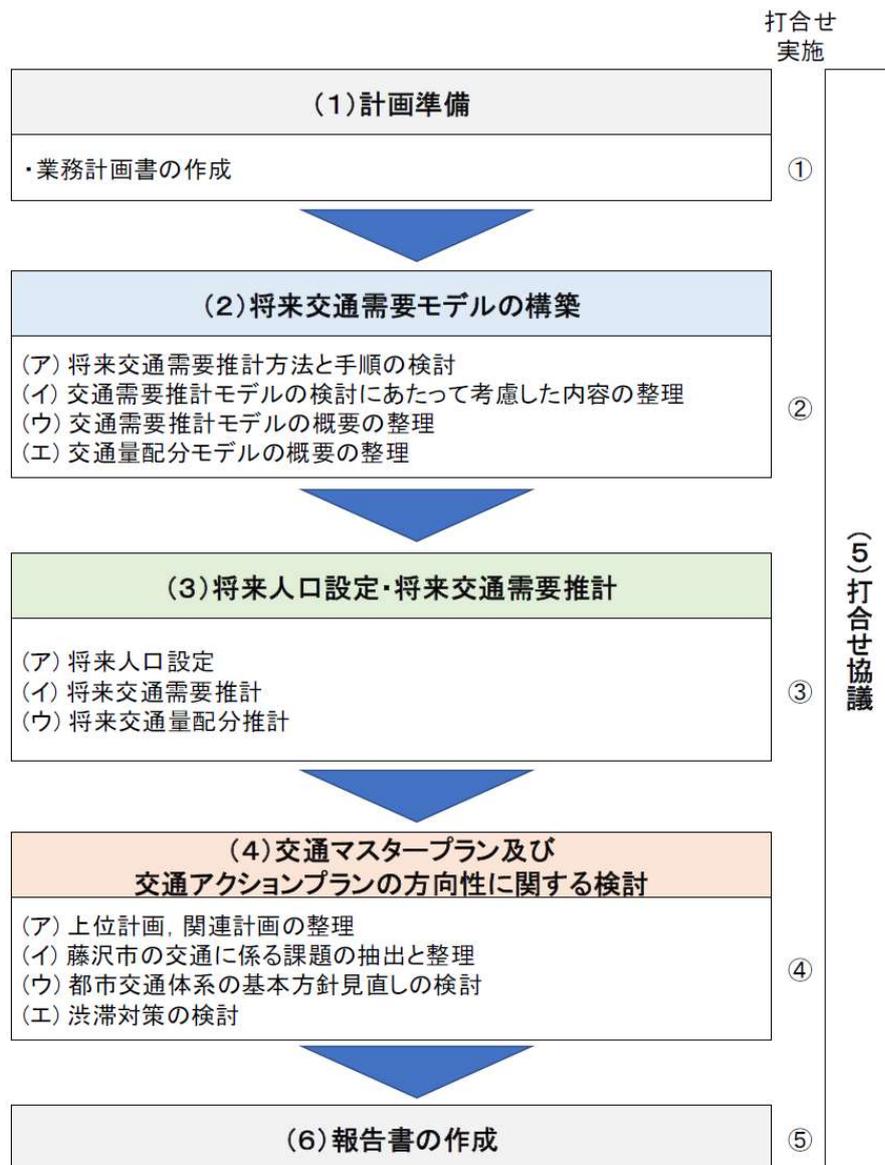
現在検討中

II 調査成果

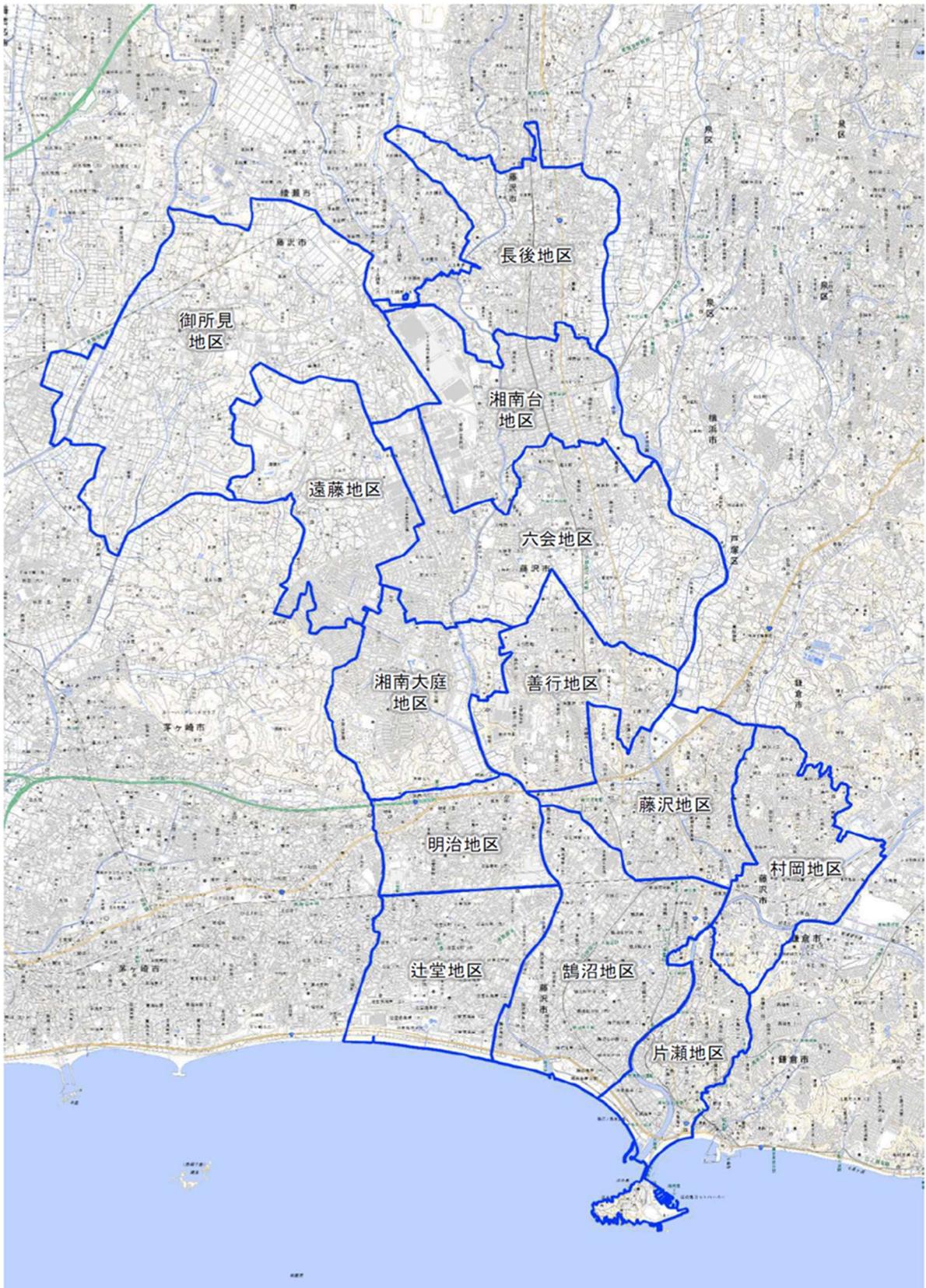
1 調査目的

本業務では、平成30年度の東京都市圏パーソントリップ調査の結果等に基づき、将来交通需要推計を行い、交通マスタープランの見直しに供する基礎的資料を作成するとともに、策定に向けた課題の整理、今後の交通施策の基本方針のたたき台を作成する。

2 調査フロー



3 調査圏域図
(藤沢市全域)



4 調査成果

令和3年度における藤沢市将来交通需要推計等の調査概要は次のとおりである。

■将来交通量推計におけるシナリオの設定

○「現況トレンド型シナリオ」に加えて、新型コロナウイルス感染拡大に行動変容等の社会経済情勢を踏まえ、「テレワーク進展シナリオ」を設定して2040年(令和22年)における将来交通量の推計を行った。

シナリオ	人口	交通行動
現況トレンドシナリオ	2040年時点の推計人口を想定 (*現況の人口動態等を加味)	H30年PT調査の交通行動が続くと想定
テレワーク進展シナリオ	テレワーク等の定着により東京・横浜への就業者の人口集中が是正	テレワーク等の進展により、通勤ニーズ等が大きく変化すると想定

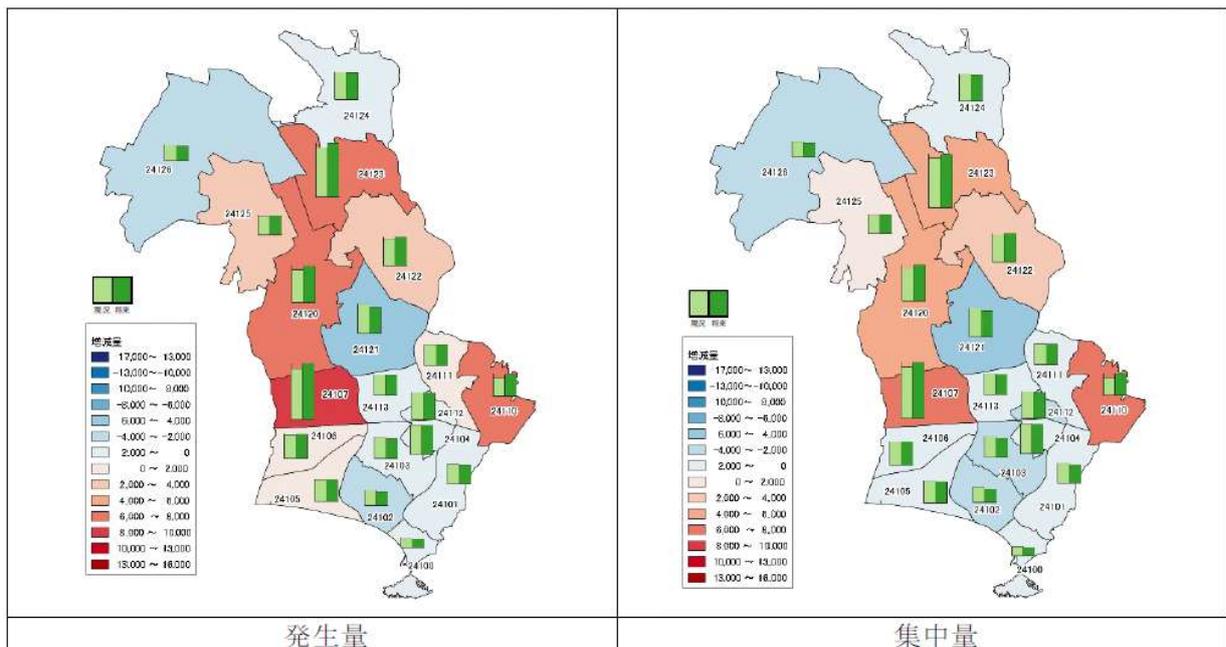
表：将来シナリオ

■シナリオ別の将来交通量推計結果

○藤沢市における各シナリオ別の将来トリップ数(発生量、集中量)の推計結果(現況(H30)と将来(R22)との比較)については、次のとおり。

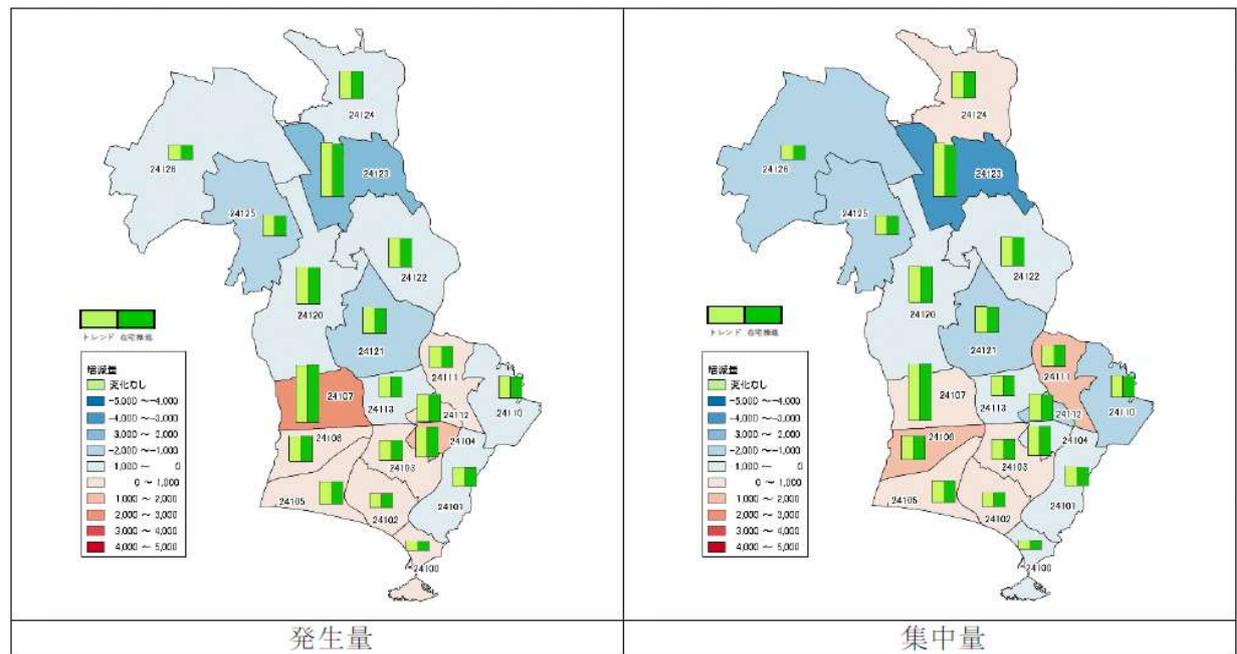
※ゾーン区分については小ゾーン単位

<現況トレンドシナリオ>



図：現況(H30)と将来(R22)のトリップ数の比較<現況トレンドシナリオ>

〈テレワーク進展シナリオ〉

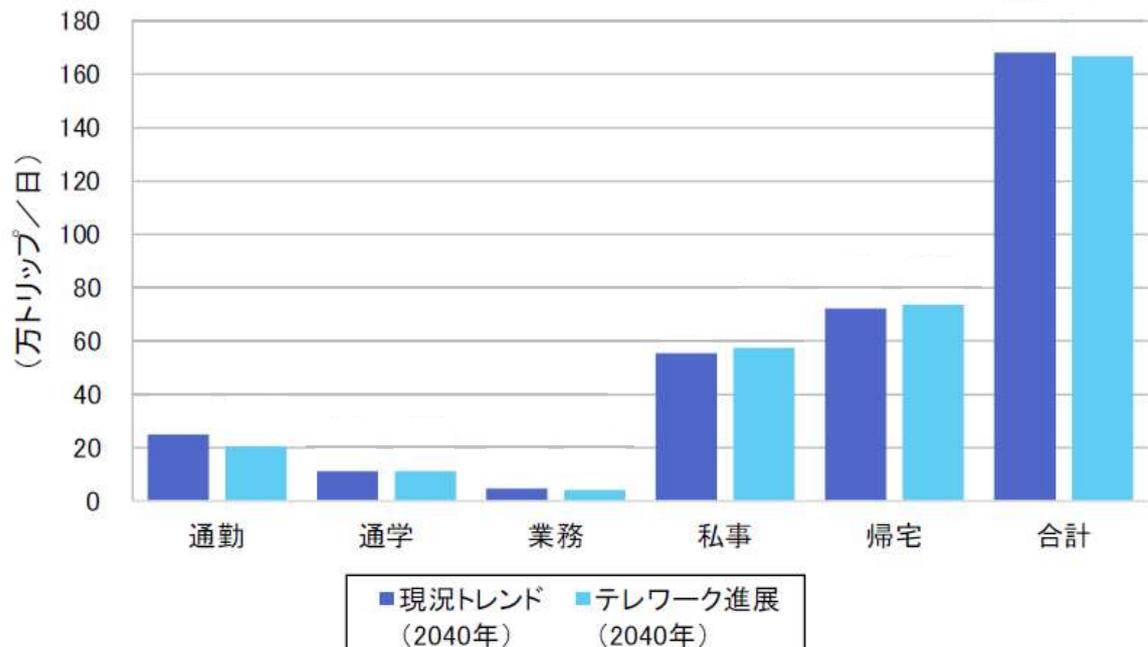


図：現況(H30)と将来(R22)のトリップ数の比較<テレワーク進展シナリオ>

■テレワーク進展シナリオにおける主な傾向

○藤沢市における「現況トレンドシナリオ」と「テレワーク進展シナリオ」の目的別のトリップ数を比較した結果を次に示す。

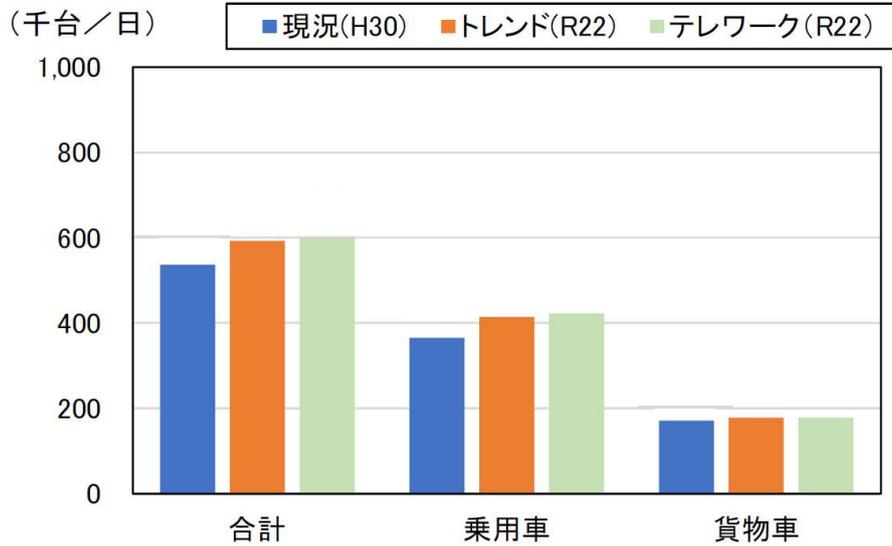
「テレワーク進展シナリオ」では、通勤目的と業務目的のトリップが減少し、私事目的トリップは増加するものの、全目的合計ではやや減少する結果となった。



図：将来シナリオによるトリップ数の比較

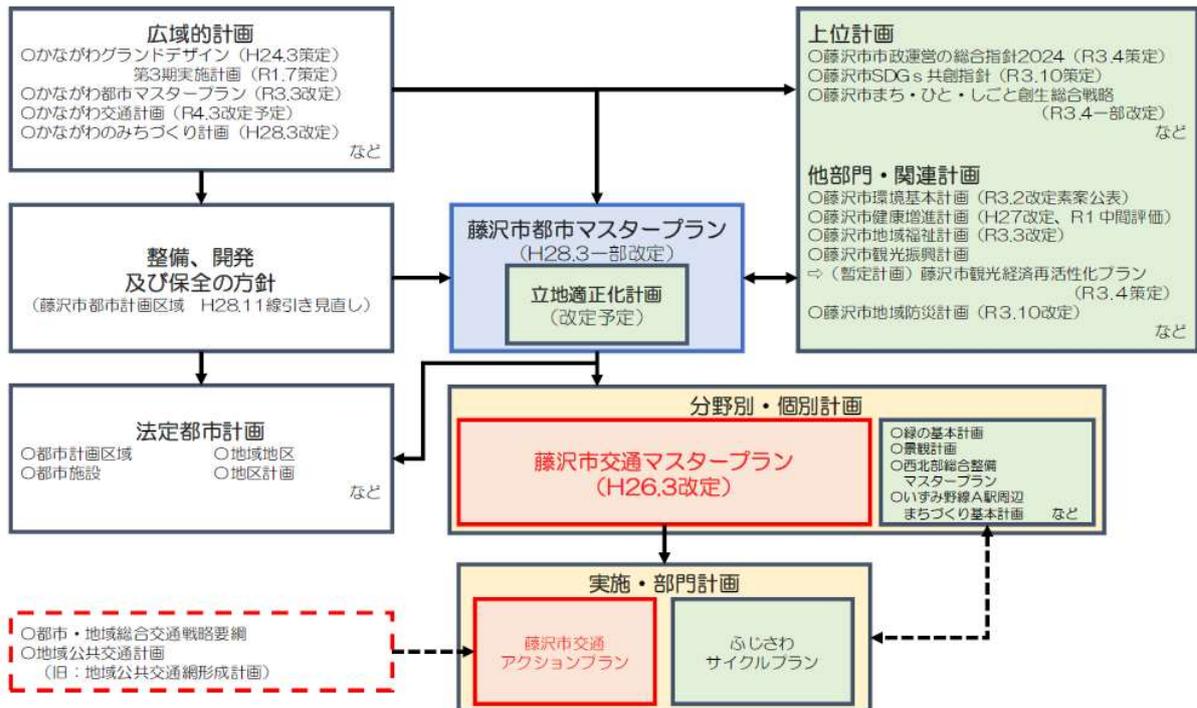
■ 将来自動車交通量

○藤沢市における将来自動車交通量（R22）は、現況よりも10%ほど増加するものと想定され、テレワークの進展によりトレンド型に比べて自動車交通量が若干増加するものと推計された。



■ 藤沢市交通マスタープラン及び交通アクションプランの位置づけ

○藤沢市交通マスタープラン及び交通アクションプランについて、次のとおり上位・関連計画との関係について整理を行った。



図：上位・関連計画との関係

■新たな交通マスタープランの方向性及び新たな視点・留意事項等

○新たな交通マスタープランを策定する際の章構成のイメージ及び新たな視点・留意事項について次のとおり整理を行った。

章構成	今回の新たな視点・留意事項等
第1章 はじめに	
1 背景と目的	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の一層の進展 ・アフターコロナを踏まえた行動変化 ・新駅整備、バス網を含む交通基盤整備の再編 ・短・中・長期を見据えた交通戦略型計画 ・新技術の進展と既存空間の利活用（時間、空間配分）
2 役割と位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・立地適正化計画を踏まえた交通計画（地域性、都市と交通の一体化）
3 冊子の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・交通マス（長期計画）と交通戦略（短・中期計画）で棲み分け
第2章 藤沢市をとりまく状況と交通課題	
1 交通まちづくりに関する広域的な視点	<ul style="list-style-type: none"> ・大きくは変わらないが、県の中心都市拠点としての重要性の高まり ⇒県の計画で新たに辻堂駅、湘南台駅、（仮）村岡新駅が湘南都市圏域の地域拠点に位置付けられた
2 藤沢市をとりまく状況	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・観光は活性化（ただし、コロナ禍により、現在の観光客は減少） ・ICT技術や自動運転・MaaSの活用が本格化、ライフスタイルや働き方、移動に変化 ・推計結果より移動の質の変化（私事や徒歩の移動が増加、市内移動が強まる）
3 藤沢市が抱える交通課題	<ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素社会への対応 ・高齢化の進展やウォークアブル空間の整備 ・地区を中心とするまちづくりへの対応
4 重要視する視点	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域特性」「活力」「環境」「安全・安心」の視点+「SDGs」の視点
第3章 藤沢市がめざす将来の交通像	
1 将来の交通像	<ul style="list-style-type: none"> ・『ひと・モノ・まちが、つながる都市～湘南ふじさわ～』 ⇒上位計画などの都市像に変化なし
2 将来の交通像のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォークアブルな空間整備、未来志向が強くなる（自動運転、脱炭素型交通など） ⇒人口減少高齢化、歩行空間の整備、新技術、脱炭素などを踏まえた方向性整理。
3 3つのまちづくりコンセプト（新規追加）	<ol style="list-style-type: none"> 1 藤沢らしさを未来につなぐ持続可能な元気なまち（サステナブル藤沢） 2 共生社会の実現をめざす誰一人取り残さないまち（インクルーシブ藤沢） 3 最先端テクノロジーを活用した安全安心で暮らしやすいまち（スマート藤沢）
4 将来の交通体系	<ul style="list-style-type: none"> ・都市構造や都市交通基盤に変化がないため、同様 ⇒ただし、地区拠点を中心とした移動（生活交通など）に関する言及・追記の必要性はあり。
5 めざす交通体系	<ul style="list-style-type: none"> ・最寄り駅まで15分・藤沢駅周辺まで30分の交通体系 ・地区拠点まで15分の交通体系（仮） ・インターチェンジまで30分（産業系市街地から15分）の交通体系 ⇒地区拠点へのアクセス指標を追加。達成度の検証等から整理
第4章 基本方針と交通施策	
1 将来の交通像に対応した基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ○方針1 地域特性に応じた移動しやすい交通まちづくり ○方針2 都市間の交流・連携や都市の活力を生み出す交通まちづくり ○方針3 環境にやさしい交通まちづくり ○方針4 ひとにやさしく・災害に強い交通まちづくり ⇒重要性は不変と思われるが、表現や内容等は要検討 改定案では方針1を地区拠点、方針2を都市拠点と関係性の高い内容に変更
2 基本方針を実現するための交通施策	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術の進展を見据えた計画 ・既存空間の利活用（時間、空間配分）の視点を追加 ・都市拠点（広域的な交通）と地区拠点（日常的な交通）の視点を追加
第5章 地域別の交通施策	
1 地域分類	<ul style="list-style-type: none"> ・立地適正化と整合させるか、現交通マスタープランの9地域で行うかは検討が必要
2 各地域の交通施策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域別の将来動向および第4章基本方針と交通施策の検討を踏まえて整理
第6章 推進方策	
1 推進方策のフォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクル ・計画策定後のフォローアップ体制（検討委員会を発展的改組させた推進委員会の設置等）
2 将来の交通像に対応した評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・評価指標の設定 ⇒現況水準等の達成度検証を踏まえ、追加・変更が必要な指標を検討
3 主要プロジェクトの戦略的展開	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度実施想定の子民ニーズ調査や達成度の検証を踏まえた検討
4 交通施策のアクションプランの策定	